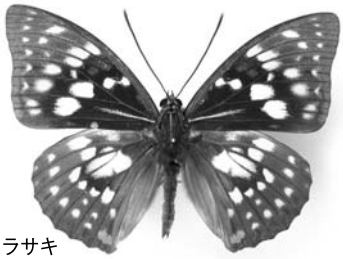
いしかり博物誌 77

国蝶オオムラサキが棲む森



オオムラサキ

©北海道開拓記念館

オオムラサキは日本の国蝶です。鱗翅目タテハチョウ科で、ムラサキ色の翅を持ち、翅を広げると8～9cmにもなる大きなチョウです。本州では、雑木林の樹液にカブトムシやクワガタムシとともに集まる虫としても知られています。

しかし、北海道では分布域は南西部に限られ、北海道レッドデータリスト（絶滅の恐れのある動植物リスト）にも挙げられている、希少なチョウです。

このオオムラサキが、浜益区実田地区の森で暮らしています。なぜ、実田にオオムラサキが暮らすのでしょうか？　その答えは、オオムラサキの幼虫が葉を食べる植物と関係があります。

オオムラサキの幼虫は、エゾエノキ（本州ではエノキ）という木の葉だけを食べます。エゾエノキが生育していない森には、オオムラサキはいません。

オオムラサキは、幼虫の姿で木の下の落ち葉に身を隠して冬を越します。ですから、いくらエノキの木があっても、落ち葉をきれいに掃いてしまったり、木の下をコンクリートで固めてしまったりすると、オオムラサキは暮らしていけません。

実田には、エゾエノキが生育する、自然のままに残された森があるのです。

多くの文献では、エゾエノキの分布は石狩低地帯以南といわれています。実田の森は、エゾエノキが隔離分布する場所で、分布の北限でもあるのです。それではなぜ石狩低地帯から80kmも北にエゾエノキは生育できるのでしょうか？　恐らく暖流対馬海流の影響を受けた、浜益地域の比較的温暖な気候に理由があるのではないかと思われます。

しかし、実田のオオムラサキ、数は非常に少なく、森を舞う姿をなかなか目にすることはできないようです。北限のオオムラサキがいつまでも暮らしていけるよう、チョウも森も大切にしていきましょう。

（内藤華子）

エゾエノキ（ニレ科）
山すそに生える落葉樹で、高さ20m。
10月に青黒色の実をつけます。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 TEL62-3711
✉i-museum@bz01.plala.or.jp
■石狩浜海浜植物保護センター TEL72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp